**ハンドマイク街頭演説原稿例　菅首相退陣表明・コロナ緊急提案**

二〇二一年九月六日　日本共産党埼玉県委員会・作成

ご近所のみなさん、こんにちは。日本共産党です。本日はこの場所をお借りして、日本共産党の政策を訴えさせていただきます。しばらくの間ご協力をお願いいたします。

みなさん、菅首相が突然、自民党総裁選への不出馬を表明しました。感染が全国的に拡大するなか、臨時国会も開かず事実上の退陣表明をおこなう。あまりにも無責任ではないでしょうか。今回の菅首相の政権投げ出しは、コロナ対策の無為無策や逆行、五輪強行による感染爆発への怒りの世論と運動に追いつめられた結果です。同時に、いまの事態は９年間にわたる安倍・菅政権とそれを支えた自公政治そのものの破綻です。いま、自民党総裁選挙をめぐり、連日のように総裁候補の言動などが報道されていますが、どの総裁候補も９年あまりの安倍・菅政権を中枢で支えてきた政治家ばかりです。どの候補が次期首相になっても、これまでの自民党政治を変えることはできません。来る総選挙では、コロナ対応でも、金権腐敗の問題でも政権担当能力を失った自公政治は退場させるしかありません。日本共産党は、市民と野党と力あわせ、来る総選挙で何としても政権交代を実現するために全力をつくします。みなさんの大きなご支援をよろしくお願いします。

みなさん、依然として全国的な感染状況はきわめて厳しく、多くのコロナ患者が入院できず、自宅放置ともいうべき事態に置かれています。そのようななか、日本共産党は、国民の命を守ることを最優先に、菅政権に以下の緊急提案をおこないました。

一つは、症状に応じて必要な医療をすべての患者に提供することです。そのために、まず「原則自宅療養」の政府方針を完全に撤回すべきです。そのうえで、限られた医療資源を最も効率的に活用するために、医療機能を強化した宿泊療養施設や、臨時の医療施設などを、大規模に増設・確保することを強く求めます。あわせて、コロナ入院病床をさらに確保しながら、在宅患者への医療支援を抜本的に強化することを求めます。その実現のために、政府が責任もって医師・看護師を確保すべきです。さらに、日本共産党は、すべての医療機関を対象にした減収ほてんと財政支援、コロナに関わるすべての医療従事者への待遇改善を早急に実施するようあらためて強く求めます。

二つは、感染伝播の鎖を断つために、感染拡大が見られる事業所や、学校、保育園、学童保育で大規模検査を政府が主導的に実行することを強く求めます。子どもたちに感染が広がりやすいのがデルタ株の特徴です。学校再開で感染爆発に拍車をかけることは絶対に避けなければなりません。自主的な登校見合わせを可能にし、その子の学びなどを支援する、分散登校やオンライン授業を活用した柔軟な学校運営を認めるなど、「災害級」の感染状況にふさわしい弾力的な対応を強く求めていきます。

憲法５３条に基づく臨時国会の召集要求を拒否することは決して許されません。日本共産党は、抜本的なコロナ対策を議論するために、臨時国会をただちに開くことを引き続き強く求めます。

　最後に、学術会議人事介入のスクープ報道で２年連続の「ＪＣＪ賞」受賞を果たした「しんぶん赤旗」を、この機会にぜひご購読いただきますようお願いしまして、この場所をお借りしての日本共産党の政策の訴えを終わります。ご協力ありがとうございました。（了）